

報告收領費會告

正會員

(自昭和六年七月 至同年十二月)

金四圓五拾錢也

岩岡緒渡河川片河桂加川吉田高武瀧大谷坪土中中永村向內植梅氏野久栗山矢榊松前間古藤	瀨島方邊合端山合弁三崎田澤原高瀨代林島川同山田屋村島田永村井田草津家本下田野方村下川島	慶奈良俊盛駿國三幸英久正孝誠勝岩榮修行審爲喜五素哲幾誠七竹清順興泰耕秀長益三	三藏也雄雄吾孝匡三彦製銀工場吉雄吉之次豐一太郎鋼製所介藏素一嗣治郎吉助之藏一豐三家作治郎樹久以次	緒大大渡川川崎本島原岡田宮嘉梨山崎田澤藤山內本村島田野澤橋井田村田上瀨久栗山柳松松的馬庭	方正久武次恒良慶信正健右憲哲正三敏良熊義小一保之義義素嘉治德己音熊忠省賀富七陽之鶴與幸律	一敦之武郎三吉篤泰安心三門治夫浩郎工雄之助算雄清吉馬郎熊二男三助一助三助造郎雄夫	小田邊瀨藤村本藤戶子森山邊村田中田內花砂鐵山田本村野島野田田山野地村知保藤本名本川田野田	田原大讓常平忠兵英堯增信武友國直清修保好勝五道弘三統重榮易九福璉鐸權幸正德詮達武馬一俊	清造吉密八衛新吉璞耀直人耶策助治三資孝巖耶方策太一雄耶萬耶造靜耶人男已耶吉夫若枝	岡小渡邊口藤部村谷山村田澤木棕邊口場花賢正清原忠三畝義十光春鶴卯之泰龍順義喜市官	山倉邊邊口藤部村谷山村田澤木棕邊口場花賢正清原忠三畝義十光春鶴卯之泰龍順義喜市官	貞正義惠正四孫千三代又鐵文七正唯八露熊本村尾藤方上像越野澤田谷崎內澤本田島野	吉恒介弘名榮耶吉潔一吉助吉耶弘雄司耶嘉七吉義八一肇雄游耶通耶保耶香雄助造章弘耶吉孜一	大大渡金河門川笠香河川吉橫高高高田田竹種谷多辻中長中中內南村向海上宇野黑葛山山安松松松萬	久平邊井相川上原月野上岡山田見松村田田子口賀元村嶺井野藤波上山野和川部田元來浦田原山波	保一慶義寬五大美要友和宣元鍊右光正敬勵懇久伸謙幹三建武健義誠四福製鋼和貞武寬	立耶新二進勳弘美耶麓壽晴三吉平誠武治二耶平義助耶三作六寬尙三夫朗耶夫彥夫耶治清所雄耶慈傳	小大渡川金景河加神加鎌吉高高高辰田田龍玉谷多土中中中鋼來村陸鵜梅白野黑楠山山矢松松前島	川橋邊島子山田藤谷藤倉川洲木倉己川子島野置村田谷村井島根島田上路瀨根倉田崎瀨本岡部原浦川島	清多福信與源恭豐仁正平清陸作英淺茂昌正久確幸四麟一朝房正新常錠正延四保之兵正春義孫宗龜	一吉雄吉耶齊三平耶平雄喜二耶那一次之一三耶生雄耶二俊次輔錄五耶一耶助武之助良吉造耶次
--	---	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	---	--

會 告 日本鐵鋼協會

日本標準規格 私費印刷分讓の件

1. 内容、形式、寸法共 商工省御編纂のものと同じなり。
2. 代金は 1 枚に付き 金壹錢也とす。
但し郵税は實費。第四種郵便にて 17 枚迄で 2 錢 18 以上 36 枚迄で 4 錢 其れ以上は 20 枚内毎 2 錢増しのこと。

本會の發行 日本標準規格目次

規格番號	類別番號	名 稱	決定年月日 大正	商工省告示番號	右同告示年月日 大正	枚數	規格番號	類別番號	名 稱	決定年月日 大正	商工省告示番號	右同告示年月日 昭和	枚數
第1號	B1	金屬材料抗張試驗片	11.10.19	43	14.3.5	2	40	H1	銅 板	15.6.23	30	2.10.22	3
2	B2	針金の徑、薄板の厚及其の稱呼	〃	44	〃	1	41	H2	黃 銅 板	〃	31	〃	3
3	Z1	寸法標準數	13.3.27	17	14.9.18	1	42	H3	アルミニウム板	〃	32	〃	3
4	Z2	等比標準數	〃	〃	〃	1	43	H4	銅 棒	〃	33	〃	3
5	G1	鍛 鋼 品	〃	9	〃	4	44	H5	ネーバル黃銅棒	〃	34	〃	3
6	G2	鑄 鋼 品	〃	10	〃	4	45	H6	高力黃銅棒	〃	35	〃	3
7	G3	鑄物用銑鐵	〃	11	〃	1	46	H7	火延黃銅棒	〃	36	〃	3
15	G4	水管罐用繼目無鋼管	14.3.27	18	15.10.26	3	47	H8	挽物用黃銅棒	〃	37	〃	2
16	G5	圓罐用繼目無鋼管	〃	19	〃	3	48	H9	繼目無鋼管	〃	38	〃	3
17	G6	機關車罐用繼目無鋼管	〃	20	〃	2	49	H10	機關車罐用繼目無黃銅管	〃	39	〃	2
18	G7	一般用繼目無鋼管	〃	21	〃	3	50	H11	復水器用繼目無黃銅管	〃	40	〃	2
19	G8	瓦斯管	〃	22	〃	1	51	H12	復水器パツキング	〃	41	〃	2
20	G9	構造(橋梁、建築其他)用壓延鋼材	〃	23	〃	6	52	H13	抑用繼目無黃銅管	〃	42	〃	3
21	G10	造船用壓延鋼材	〃	24	〃	5	53	H14	一般用繼目無黃銅管	〃	43	〃	1
22	G11	罐用壓延鋼材	〃	25	〃	6	54	K1	銅地金分析方法	〃	18	昭和 3.5.23	12
23	G12	鐵道車輛用壓延鋼材	〃	26	〃	6	55	K2	鐵及鋼炭素分析方法	2.10.3	20	4.5.13	5
24	G13	壓延鋼材の寸法及重量の公差	〃	27	〃	2	56	K3	鐵及鋼珪素分析方法	〃	〃	〃	5
25	G14	標準棒鋼	昭和 2.10.3	23	昭和 4.5.13	4	77	G18	罐用繼目無鋼管の寸法	3.10.18	32	5.6.2	1
26	G15	標準形鋼	〃	29	〃	16	78	G19	一般用繼目無鋼管	〃	23	〃	2
36	B8	管用ねじ	大正 15.6.23	26	2.10.22	1	79	G20	可鍛鑄鐵品	〃	24	〃	3
37	B9	管接手ねじ	〃	27	〃	1	80	G21	水道用鑄鐵管	〃	25	〃	4
38	G16	瓦斯管の寸法	〃	28	〃	1	81	H15	水道用鉛管	〃	26	〃	3
39	G17	銜	〃	29	〃	9	82	H16	亞鉛地金	〃	27	〃	2
							83	K4	亞鉛地金分析方法	〃	—	—	10

以上の外設計上の参考及製作規格等本會に關係するも多々あれども追ふて發行するものとす。

實物寸法 159mm = 四寸五分五厘

JES 日本標準規格 第55号

鐵及鋼炭素分析方法 類別 K2 頁 1

第一章 總 則

第一章 本規格は鐵及鋼の炭素分析方法之ヲ適用
第二章 鐵及鋼炭素分析方法ハ次ノ3種トス
一、炭素鋼及鉄炭素鋼分析方法
二、特殊鋼炭素分析方法
三、合金鉄炭素分析方法

第二章 炭素鋼及鉄炭素鋼分析方法

第三章 本章ノ炭素分析方法ハ各炭素、遊離炭素及化合物炭素ノ定量法トス
第四章 全炭素定量法ハ次ノ通りトス

一、要 旨
試料ヲ乾式燃焼法ニ依リ直接ニ炭素ノ氣流中ニ於テ燃焼シ炭素ヲ完全ニ酸化セシメテ炭素ヲ爲シ之ヲ管流石炭又ハ管流石炭ニ吸収セシメ其ノ増量ヲ炭素ノ定量トス

二、装置 (附圖參照)
(一) 炭素瓦斯淨化装置
本装置ハ瓦斯槽 (a) 中ニ於テ炭素瓦斯ヲ其ノ中ニ含有スル炭素瓦斯又ハ有機性瓦斯等ヲ除去シ且淨化炭素瓦斯ヲ爲シ之ヲ管流石炭 (炭素比量 1.82) 中ニ投入ス洗瓶 (b)、管流石炭又ハ管流石炭ノ炭素 (炭素比量 (a) 及炭素比量 1.84) 中ニ投入ス (c) 中ニ於テ炭素瓦斯ヲ管流石炭ニ吸収セシメ之ヲ管流石炭ニ定量トス

(二) 燃焼炉
燃焼炉ハ内径約 3cm ノ管狀電氣炉 (f) 又ハ適當ノ瓦斯炉ニシテ電氣又ハ瓦斯ヲ高熱ニシテ投入ス之ニ於テ炭素ノ中央部ニ於テ長約 15cm 中ニ一定温度ニ保持シ之ニ燃焼トス
炉ハ其ノ両端ニ約 15cm 突出シ得ヘキ長ク有スル内径約 2cm ノ磁製絶緣管 (e) 中ニ投入ス又ハ管中ニ投入セラルヘキ絶緣「ボート」位置ノ後方約 10cm 處ニ置テ白金石炭、「パラゲラム」石炭又ハ酸化鉄石炭ヲ裝メタルモノトス

(三) 瓦斯吸收装置
本装置ハ燃焼炉中ニ於テ炭素瓦斯ヲ爲シ之ヲ管流石炭 (炭素比量 1.82) 中ニ投入ス洗瓶 (b)、管流石炭又ハ管流石炭ノ炭素 (炭素比量 (a) 及炭素比量 1.84) 中ニ投入ス (c) 中ニ於テ炭素瓦斯ヲ管流石炭ニ吸収セシメ之ヲ管流石炭ニ定量トス

昭和二年十月三日決定 工業品規格統一調査會

日本標準規格 第26号 類別G15 頁1